

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

本校は自己点検・自己評価を取り組み、学校の質保証・向上の推進をめざしている。自己点検・自己評価は、学校の教育の関する現在の状況を基準に則って評価することにより、改善すべき点を明らかにして、質を向上させる（PDCA サイクルの活用）機能もある。学校が評価した結果について、さらに学校評価委員会の評価を受けて、改善すべき点の示唆、助言から取り組むとする。

2. 自己点検・自己評価結果

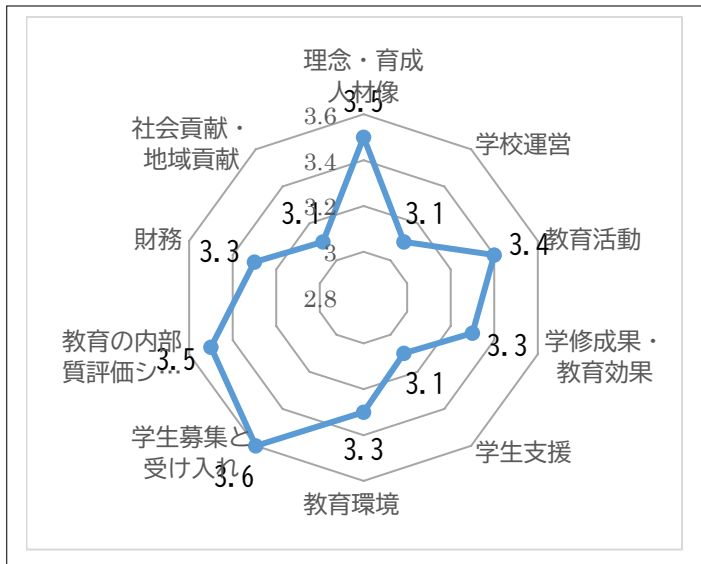
教職員回答率 72.7%

1) 大項目評価の平均値

評価基準：評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

領域	項目	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
I	教育理念・目標	3.5	3.6	3.5	3.5
II	学校運営	3.1	3.3	3.2	3.2
III	教育活動	3.4	3.5	3.0	3.4
IV	学修成果・教育効果	3.3	3.4	3.4	3.0
V	学生支援	3.1	3.2	3.0	3.1
VI	教育環境	3.3	3.4	3.4	3.4
VII	学生の受入れ募集	3.6	3.7	3.4	3.3
VIII	教育の内部質評価システム	3.5	3.6	3.2	3.3
IX	財務	3.3	3.5	3.6	3.6
X	社会貢献・地域貢献	3.1	3.0	2.9	2.8

図1 大項目レーダーチャート



令和5年度の自己点検・自己評価結果は大項目レーダーチャートに示す。教育理念・目標、教育活動、学生募集・受入、内部質評価システムは、平均3.5であり概ね良好である。学校運営、学生支援、社会・地域貢献は、平均3.1と前年度より評価点が低い結果となっている。

2) 領域評価

I. 教育理念・目標 評価 3.5

アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシー等、校舎入口に掲げていることをアピールし、進級時のガイダンスにおいての説明が成果として表れている。学校評価の学生の評価もそう思う、ややそう思うと回答した学生の割合が高い結果となっている。今年度も同様に入学時及び進級時には既定の変更、手続きなどのガイダンスを行い周知する。

II. 学校運営 評価 3.4

カリキュラム改正2年目であり新設科目の教育内容の展開、進捗等領域間の連携、協働により、深い学びに繋がった。学校運営の中項目 5. 人事・給与制度は 2.8、6. 情報システムは 2.6 と低い結果であ

る。人事制度を導入に伴い教職員の人事評価を作成に伴い、今年度の目標を設定し成果評価を行ったが、給与、人事考課に反映されていない。情報システムについては、学校のシステムを担当している職員の異動により、IT に長けている教員がシステム管理までせざるを得ない結果となり、教育活動以外に学校で使っている PC の管理まで行っている状況である。

III. 教育活動 評価 3.4

教育活動は概ね良い評価である。中項目 5 において 3.1 と他の項目より低い。シラバスを講義要項に示しているが、授業で有効活用されていない、授業や学習の定期的な観察がない、授業評価を改善に役立っていない、カリキュラム作成メンバーに外部関係者を入れていない、教育方法の工夫・開発の実施がない等の小項目が 3.0 以下である。前年度に教員の質保証の観点から定期的な授業観察を実施するとしたが、新任教員の授業参観を領域担当に任せ、学校管理者や教育課程責任者が授業参観を計画していなかった。領域の担当教員だけでなく管理者からのフィードバックを得ることで授業の質を高め、やりがい感につなげられるよう質保証も管理者の役割と認識して取り組むとする。

IV. 学修成果・教育効果 評価 3.3

令和 5 年度卒業生 78 名、卒業延期(単位保留)3 名である。看護師国家試験合格率 % である。進学名桜代が編入 1 名、熊本大学養護教諭特別別科 1 名である。就職は国立・県立・市立 28 名 (38%)、医師会会員施設 25 名 (33%)、県外就職 22 名 (29%)、未定 1 名である。県外への就職が例年より高く、県内就職の魅力を伝えていく、就職説明会を早めるなど実習施設との調整、連携を強化する必要がある。

V. 学生支援 評価 3.1

中項目 5 中途退学への対応、中項目 6 保証人との連携、中項目 7 卒業生・社会人支援等が 3.0 以下の評価である。退学者が毎年発生しているわけではないが、退学者への対応として学校の目標及び講評を設定する方向とする。加えて休学者の対応が急務である。現在 2 年次在籍の休学者 5 名、休学中科目履修を行い進級は問題ない。卒業生や社会人への支援は、卒業生への卒業後教育について評価が低い。限られた教員数では在校生への教育で精一杯である。卒業生の事例研究の文献検索への対応、相談等可能な限り支援している。学校が卒業生への卒業後教育を計画し、講習会・研修会等を開催するとなれば内容、費用等企画運営を担当する教員を置く必要があり、課題とする。

VI. 教育環境 評価 3.3

教育上必要な施設、設備は十分対応できるように整備している。学内の整理・整頓・清掃については、5S (整理・整頓・清潔・清掃・躰) を推奨していく。学期末、行事ごとに学生の清掃の割り当てを行っているが、学校生活のなかで日々環境整備を意識できるよう躰を強化していく。

VII. 学生の受入れ募集 評価 3.6

令和 6 年度入学試験志願者は、現役高校生 167 名、既卒 42 名の 209 名である。前年度より 1 名の減少である。看護学校 5 校中減少率は 1 % 以下である。他校 -31% ~ -15% であり、少子化のおり受験生獲得の取り組みを強化する。今年度既卒生の減少がなかったことから社会人受験生の受験再作、相談を継続していく。

VIII. 教育の内部質評価システム 評価 3.5

今年度沖縄県看護師養成所等指導調査において指導事項 5 項目、口頭指導事項 9 項目の指摘があり改善計画を提出した。専任教員養成講習会未受講者の受講計画、実習指導者の配置のない実習施設等、細部まで調査が行われ、ガイドラインに沿っての学校業務、事務の重要性を認識する機会となった。

IX. 財務 評価 3.3

学校の中長期計画について医師会本部と話し合う機会を要望しているが、令和 6 年度今後のぐし看について検討する会が発足する予定であると聞いている。看護学校の経営主体、看護基礎教育の期間延長などの課題を議論する時期になったことを期待したい。

X. 社会貢献・地域貢献 評価 3.1

地域・在宅看護論、老年看護学等科目に地域の人々との関わりを設定して、地域に出向いたり、高齢者の方を招くことはあるが、科目以外において地域貢献・社会貢献等の具体的活動がない。学生から今年度ボランティアクラブの結成の声が上がり、令和 6 年度から活動できることを期待する。